

人工衛星(だいち2号)により天然ダムの発生や土砂を捕捉した砂防堰堤を迅速に調査

～台風7号における大規模土砂災害の発生調査結果について～

台風第7号により、8月14日から紀伊山系では、大雨が発生しています。このため、台風通過後の16日深夜より、人工衛星による地表観測を行い天然ダムの発生調査を実施しましたので、結果を報告いたします。

1. 結果概要 (※別紙参照)

- ・JAXA衛星「だいち2号」により、紀伊半島の和歌山県側の地表データ(反射強度)を取得しました。
 - ・今回、観測されたデータに対して、過去の観測とのデータの変化を分析し、紀伊半島の和歌山県側では、天然ダムが発生していない可能性が高いことを確認しました。
- ※今回の調査結果については、あくまで速報のため今後変更する可能性があります。

2. 取材について

マスコミ関係者で取材を希望される方は、電子メール(kkr-sankei-otayori@mlit.go.jp)もしくはFAXにてご連絡下さい。

<取扱い> -----

<配布場所> 近畿建設記者クラブ、大手前記者クラブ、奈良県政・経済記者クラブ、和歌山県政記者クラブ、和歌山県地方新聞記者クラブ、和歌山県政放送記者クラブ、三重県政記者クラブ、三重県第二県政記者クラブ、五條市政記者クラブ

<問合せ先> 国土交通省 近畿地方整備局 紀伊山系砂防事務所

副所長(技術) 小原 雅彦(こはら まさひこ)

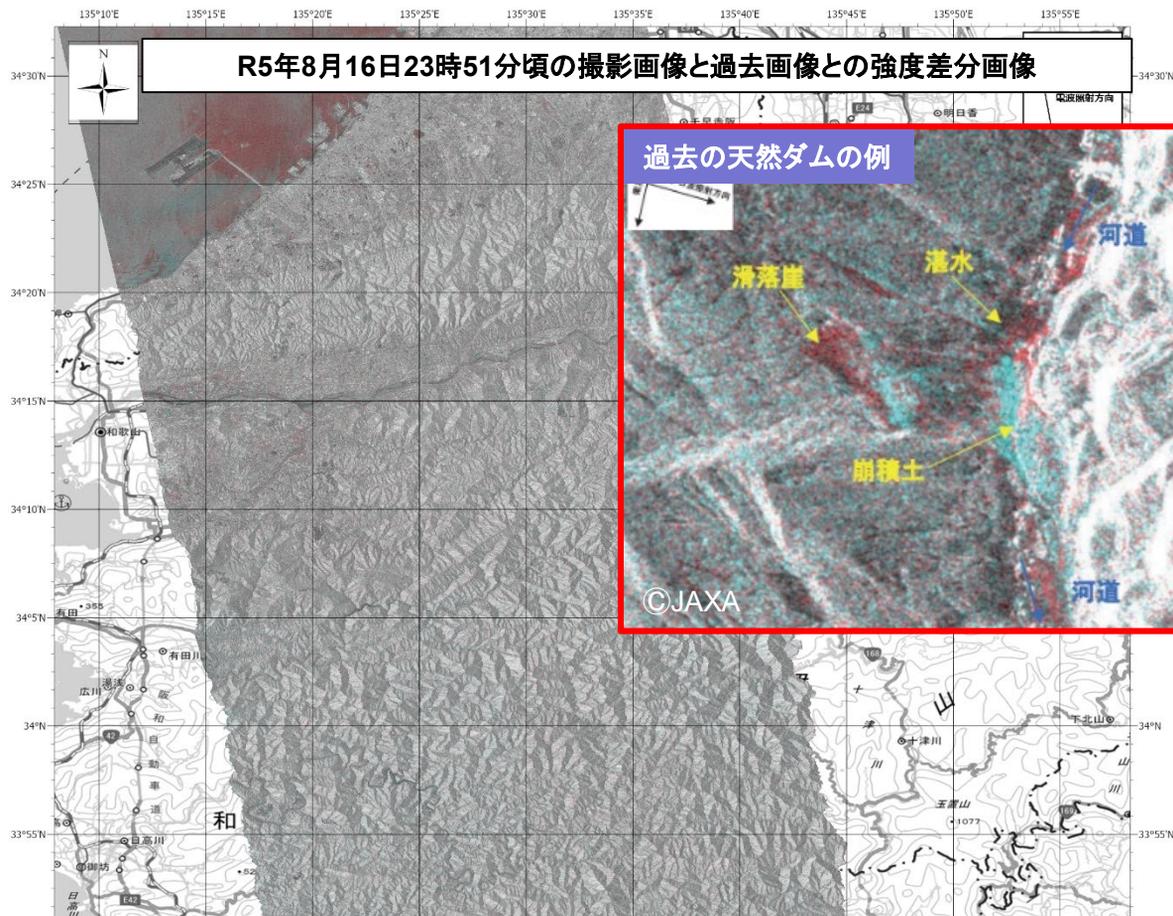
調査課長 岸本 優輝(きしもと ゆうき)

建設専門官 日朝 洋明(ひあさ ひろあき)

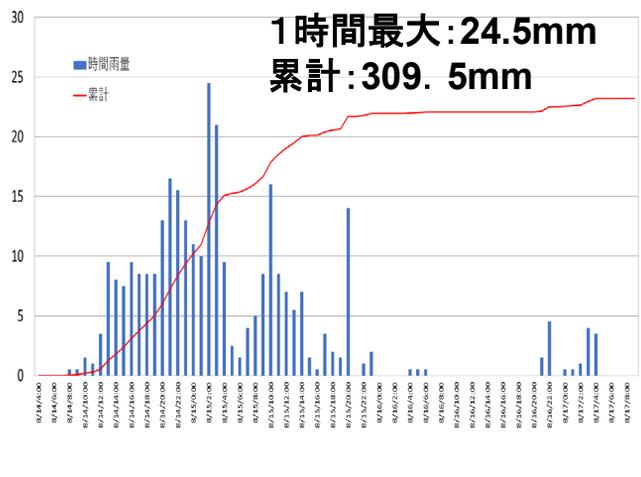
電話 0747-25-3111 (代表) FAX 0747-25-3110

今回行った調査は、紀伊半島の和歌山県側において人工衛星から発したマイクロ波の地表からの反射強度を計測したものである。

天然ダムを形成するような崩壊が発生した場合、過去に計測した反射強度のデータと比較すると、赤枠図中に示すような色の変化が現れる。今回の観測では、観測範囲の全域において、そうした変化が認められなかったことから、**天然ダムの発生は無かったと考えられる。**



令和5年度台風第7号 時間雨量・累計 (熊野地区)



SAR画像の観測日
緊急観測: 2023/8/16 23:51頃 (JST)
アーカイブ: 2023/5/10 23:51頃 (JST), 2021/12/8 23:51頃 (JST)
光学画像の観測日: 2023/6/17, 2023/7/4, 2023/7/27, 2023/7/29